

クラスターが生むグローバルな競争優位

1. クラスタとは

クラスター 特定分野の競争における突出した成功がひとつの場所に集約されている状態
(正反対)

グローバル経済が進展することで、経営資源の入手にかかわるコストが小さくなり、地理的要因は少なくなるはずである。

2. グローバル経済における地理的条件のパラドックス

グローバル経済 持続的な競争優位は遠隔地のライバルにまねのできないローカルな要因
知識や関係、モチベーションに依存する。 地理的要因が大きい

3. 競争におけるクラスターの意義

(1) クラスタと生産性

- ・ 従業員・サプライヤー環境改善・・・専門性の高いコラボレーター
- ・ 専門的な情報へのアクセス・・・情報蓄積性とアクセスの容易さ
- ・ 補完性・・・シナジー効果（製品やサービスが補完しあう）
- ・ イメージの向上・・・特定地域に対する評判の向上
- ・ 顧客メリット・・・代替業者の多数存在
- ・ 各種機関や公共財へのアクセス・・・インフラ整備
- ・モチベーションの向上・・・ピア・プレッシャーの存在（コミュニティ内の名声欲求）
- ・ 業務測定の精緻化

(2) クラスタとイノベーション

- ・ イノベーションのチャンスを発見しやすい（ピア・プレッシャー、先進的な顧客）

(3) クラスタと新規事業の形成

- ・ 既存の製品やサービスに対するギャップを発見しやすい
- ・ 既存の人脈
- ・ ファブレスの容易化

4. クラスタの誕生、発展、衰退

誕生の要因・・・歴史的な背景（オランダ（海運）、ボストン（学校））

切迫した需要（イスラエル（灌漑農業））

インフラ、関連産業の充実（南カリフォルニア（ゴルフ産業））

航空宇宙クラスター）

偶然

発展・・・成功の具現 優秀な人材、企業家、関連産業の集積 地域が専門分野に特化

衰退・・・技術における不連続性

買い手のニーズの変化

クラスター内部からの脅威（馴れ合い意識、カルテル、制約の多い規制、
クラスター内部での意見対立）

教育機関の質の低下

こうした硬直性がおきやすくなる理由 政府の介入、古い慣例にとらわれる企業
遠隔地のサプライヤーへのアウトソーシングなどによって補える（ドイツの自動車工場）

5. グローバル競争優位のための戦略的課題

- ・ 立地の選択（インプットコストだけでなく、システム全体としてのコスト）
- ・ 地域に根を下ろす（コミュニティへの積極的参加）
- ・ クラスタの改善（クラスターへの投資）
- ・ 集団として取り組む（業界団体の見直し（特に中小企業から成り立っているクラスター））

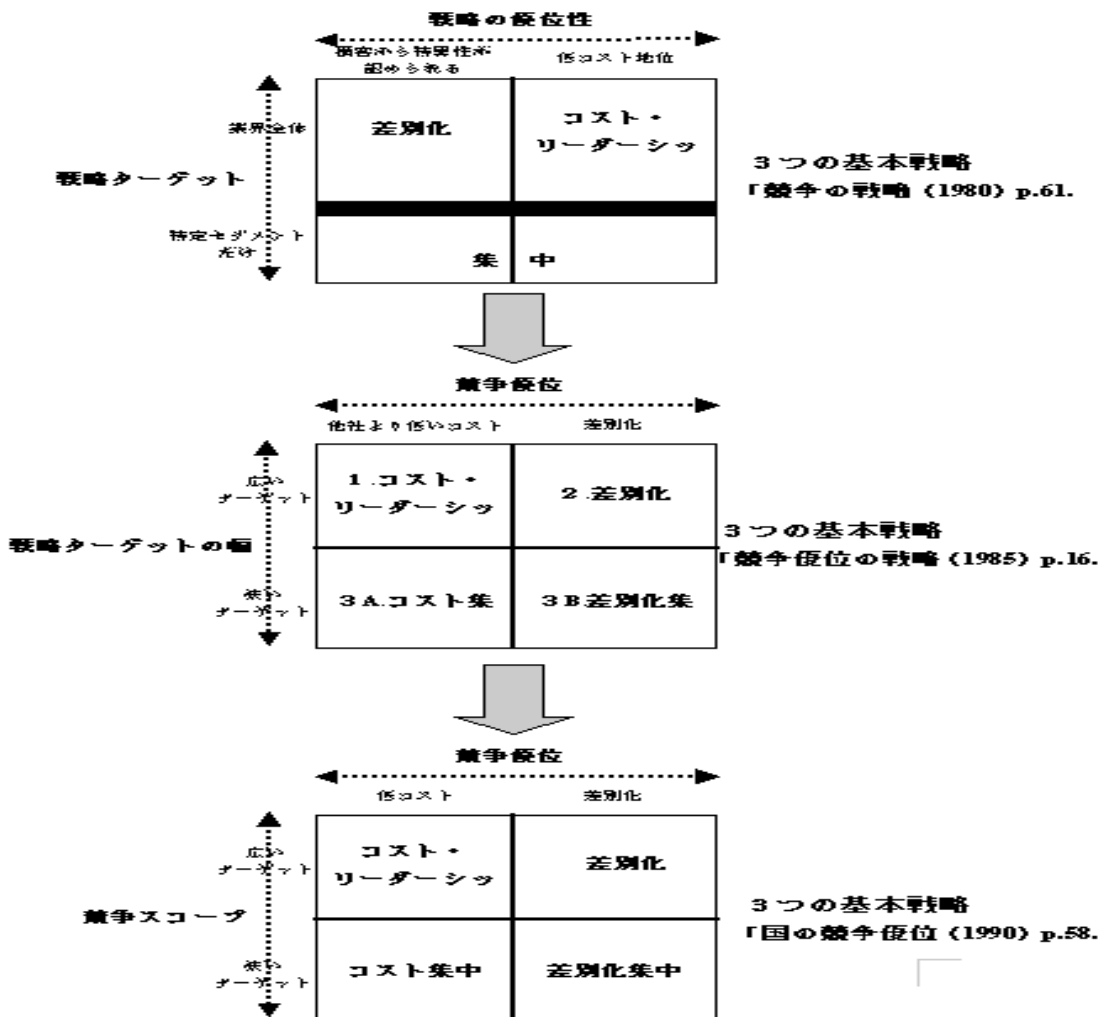
6. 産業政策はなぜだめなのか

- ・ 結果を決めるのは市場の力・・・政府がクラスターの選別を行うべきではない
 既存クラスターの強化や育成に励むべきである
 当該地域の独自性に根ざす

新しい、官民共同の考え方が必要。

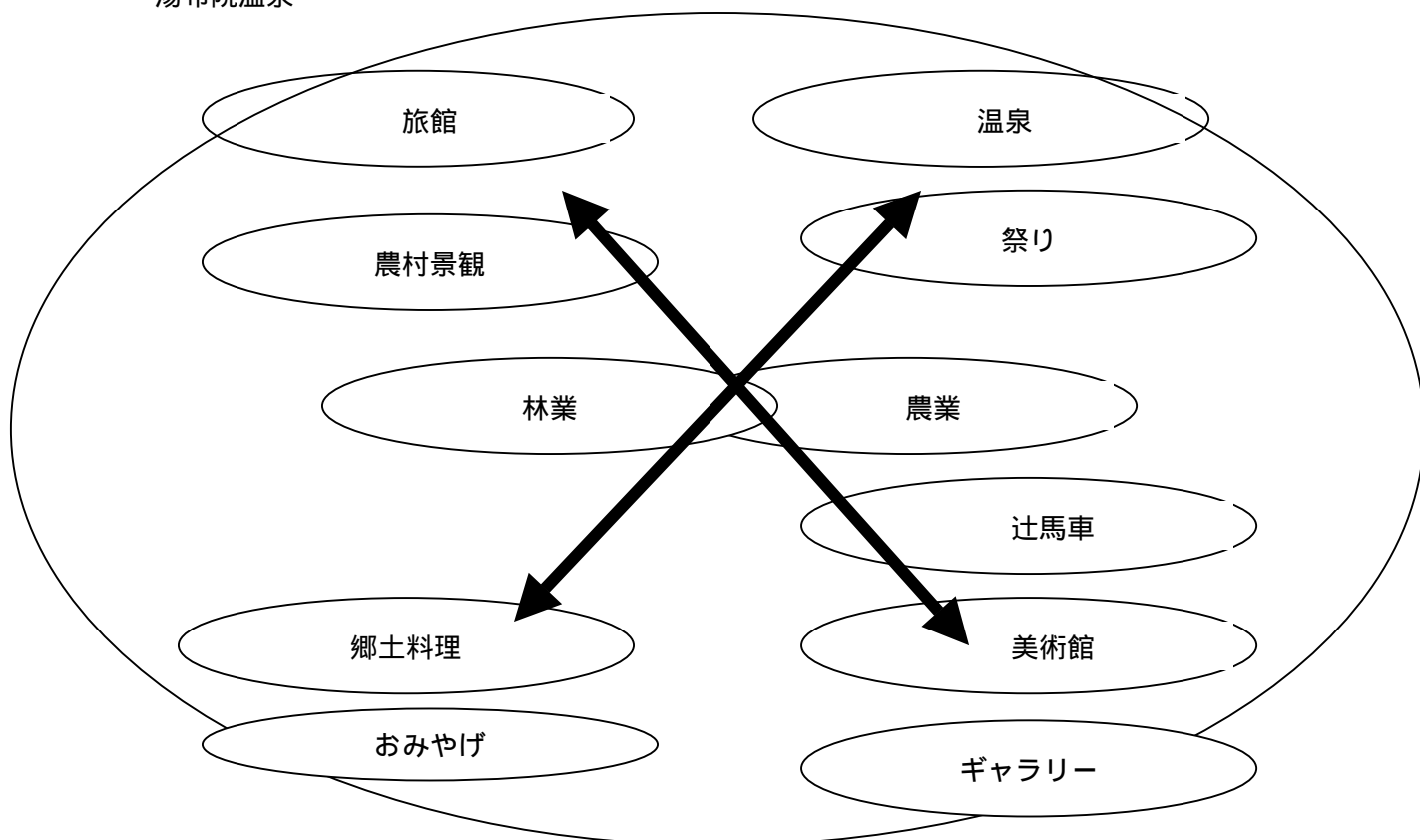
ポーター説に対する疑問

- ・ すべての条件が同じであれば遠隔地より近隣のパートナーを・・・
 ？
- ・ クラスターとは単に移譲困難なものが集積しているだけなのではないか？
 知識労働が入っており、その付加価値生産性が高いため目立っているだけなのでは？
 単なる古典的地理学における立地論の延長では？
- ・ 北欧家具と飛騨高山の関係
- ・ そもそも競争と信頼とは共存できるのか？（あまりに性善説過ぎないか）
 特に特許の権利が弱い日本において
- ・ コストリーダーシップ戦略をなぜいわなくなったのか？
 「競争の戦略」にあった競争優位のうち、「コストリーダーシップ」戦略についてのみ述べられていない。（コストリーダーシップ、差別化、集中）



日本における観光クラスターの例

湯布院温泉



由布院のイメージはさまざまな要素によって形成されている。